

ライフグループ 介護職員初任者研修 研修機関情報

I 研修機関情報

- (1) 研修場所 ライフシップケア帯広
- (2) 住 所 〒080-0017 帯広市西7条南6丁目1-4
TEL : 0155-22-3818 FAX : 0155-22-3831
- (3) 理 念 「生き方、生活、人生を自らデザインする。」
- (4) 学 則

①研修の目的

当社は、介護・医療業界で働く職員のキャリア向上や生活などをサポートし、成長を喜びに変えることを大切にしている。このことが介護を必要とする利用者様に対する介護の質の向上にもつながり、地域の福祉への貢献へとつながる。

②研修の名称

ライフグループ介護職員初任者研修

③研修の要旨

事業所の所在地	研修形態	修業年限	研修期間	定員（人）	受講料（税込/円）	受講対象者
帯広市西7条南6丁目1-4	通信 (平日昼間)	8か月	1か月	15	60,000	一般公募

※受講料（共通分）の内訳

講習料：45,000円・テキスト代：5,000円・資料代：10,000円

④受講手続

1) 募集時期

一般公募

開講日の1か月前から募集し7日前に締め切る。

自社ホームページ、Instagramに掲載。

応募者多数の場合は申込書の先着順とする。

2) 受講料納入方法

- ・申し込み後、指定の期日までに指定金融機関への振込または、受付での現金支払にて納入する。
- ・研修の開始までに受講料が入金されない場合は、受講を断る場合がある。

3) 受講料返還方法

受講前については、当会の都合により研修を中止した限り受講料を返還する。他は返還しない。

⑤カリキュラム

(1) 職務の理解 (6時間)

到達目標・評価の基準

研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組むことができる。

項目	時間数	講義内容および演習の実施方法
1. 多様なサービスの理解	3時間	【講義】 ・介護保険サービスや介護保険外サービスの内容について理解する。
2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	【講義】 ・講義や視聴覚教材を活用し、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。 ・介護サービス提供に至るまでの流れを理解する。 ・チームアプローチの必要性と具体的な連携時方法を理解する。 【演習】 ・特定施設を見学し、介護職の具体的なイメージを持ち以後の学習に取り組める土台を形成する。

(2) 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)

到達目標・評価の基準

介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解することができる。

- ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。
- ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

項目	通学	通信	講義内容および演習の実施方法
1. 人権と尊厳を支える介護		7時間	【通信】 ＜添削課題のポイント＞ ・日本国憲法について ・権利擁護の視点について ・人間観を構成する3つの要素について ・エンパワメントに向けた利用者理解の視点について ・国際生活機能分類（ICF）の構成要素間の相互作用について ・介護の場におけるQOLについて ・ノーマライゼーションについて ・高齢者虐待の種類について ・身体拘束の緊急やむを得ない場合の3要件について
2. 自立に向けた介護	2時間		【講義】 ・介護における自立とは何か理解する。 ・「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。

			<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防の考え方について理解する。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いたグループワークを行い、個別ケアについての理解を深める。
--	--	--	---

(3) 介護の基本 (6時間)

到達目標

- 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解することができる。
- 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。
- ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
 - ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
 - ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
 - ・生活支援の場では典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
 - ・介護職におこりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

項目	通学	通信	講義内容および演習の実施方法
1. 介護職の役割	2時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴を理解する。 ・介護の専門性について考え、専門職に求められるものが何かを理解する。 ・多職種連稀有の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。
2. 介護職の職業倫理	1時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職がもつべき職業倫理について理解する。 ・日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を通し、行動規範や社会的責務を理解する。
3. 介護における安全の確保と リスクマネジメント	2時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。 ・利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護事故発生時の対応について、高齢者介護施設における感染管理体制について、事例に基づいたグループワークを通して理解を深める。
4. 介護職の安全	1時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護の特徴をふまえて、介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ。 ・介護職に起こりやすいところからだの病気や障害について学ぶ。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職自身の健康管理の方法について、事例

			に基づいたグループワークを通じて理解を深める。
--	--	--	-------------------------

(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)

到達目標

- 介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
- ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。
 - ・介護保険制度や障害福祉制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。
 - ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
 - ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。
 - ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙できる。

項目	通学	通信	講義内容および演習の実施方法
1. 介護保険制度	4時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ。 ・介護保険制度の基本的なしくみを理解する。 ・介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ。
2. 医療との連携とリハビリテーション	2時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職と医療行為の実情と経過について理解する。 ・在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの実際や、リハビリテーションと介護の連携について、具体的な事例を用いグループワークを通じて理解する。
3. 障害者福祉制度およびその他の制度		3時間	【通信】 <p><添削課題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者総合支援法で提供されるサービスについて ・日常生活自立支援事業について ・成年後見制度について

(5) 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)

到達目標

- 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解することができる。
- ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
 - ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
 - ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
 - ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

項目	通学	通信	講義内容および演習の実施方法
1. 介護におけるコミュニケーション	3時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 退陣援助におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ・ 介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレイや具体的な事例検討を通してコミュニケーション技法の実際や利用者の状況・状態に合わせたコミュニケーションの方法を理解する。
2. 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ。 ・ チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレイを通して会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方を学ぶ。

(6) 老化の理解 (6時間)

到達目標

- 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解することができる。
- ・ 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。
 - ・ 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

項目	通学	通信	講義内容および演習の実施方法
1. 老年期の発達と老化にともなう心身の変化の特徴	3時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 老年期や高齢者の定義について理解する。 ・ 老化の影響は個人差が大きいことについて理解する。 ・ 老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。 ・ 多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループワークを行い、老化による身体的・心理的变化をまとめ発表することで、より理解を深める。
2. 高齢者と健康		3時間	【通信】 <p>< 添削課題のポイント ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関節や骨の慢性疼痛について ・ 介護を要する高齢者によくみられる生活習慣病について ・ 介護を要する高齢者によくみられる運動系の病気について ・ 介護を要する高齢者によくみられる知覚系の

			病気について <ul style="list-style-type: none"> ・介護を要する高齢者によくみられる呼吸器の病気について ・介護を要する高齢者によくみられる腎・泌尿器の病気について ・介護を要する高齢者によくみられる消化器の病気について ・介護を要する高齢者によくみられる循環器の病気について ・介護を要する高齢者によくみられる脳・神経、精神の病気について ・介護を要する高齢者によくみられる感染症について
--	--	--	--

(7) 認知症の理解 (6時間)

到達目標

- 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解することができる。
- ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
 - ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
 - ・認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
 - ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
 - ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
 - ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。
 - ・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。
 - ・家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。

項目	通学	通信	講義内容および演習の実施方法
1. 認知症を取り巻く環境	1時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ・問題視するのではなく、人として接することを理解する。 ・できないことを見るのではなく、できることをみて支援することを理解する。
2. 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理		2時間	【通信】 <添削課題のポイント> <ul style="list-style-type: none"> ・認知機能について ・認知症について ・記憶の過程について ・せん妄について ・認知機能のスクリーニング検査について ・アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違いについて ・レビー小体型認知症について ・若年性認知症について ・おもな認知症の非薬物療法について

3. 認知症にともなうこころからだの変化と日常生活	1時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要か理解する。 ・認知症の人の行動と環境との関係について理解する。 ・病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の具体的なケースを示し、グループワークを通して認知症の利用者の介護における原則について理解する。
4. 家族への支援	2時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを事例を基にしたグループワークを通して学ぶ。

(8) 障害の理解 (3時間)

到達目標

障害の概念とICF、障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解することができる。

- ・障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
- ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

項目	通学	通信	講義内容および演習の実施方法
1. 障害の基礎的理解		1.5時間	<p>【通信】</p> <p><添削課題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際障害分類と国際生活機能分類について ・身体障害者福祉法について ・精神保健福祉法について ・発達障害者支援法について ・障害者福祉の基本理念について
2. 障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識			<p>【通信】</p> <p><添削課題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の原因となる主な疾患について ・障害にともなう心理的影響、障害の受容について ・障害のある人の生活を理解、介護上の留意点について ・障害のある方とのコミュニケーション方法について
3. 家族の心理、かかわり支援の理解	1.5時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族支援は、家族介護の肩代わり支援だけではないことを理解する。 ・日本に求められるレスパイトサービスの課題を理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークによるロールプレイを通して、

			レスパイトケアの実践に関する理解を深める。
--	--	--	-----------------------

(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)

到達目標

- 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
- ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
 - ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
 - ・利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
 - ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
 - ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
 - ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
 - ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
 - ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
 - ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
 - ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
 - ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
 - ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
 - ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。

項目	通学	通信	講義内容および演習の実施方法
1. 介護の基本的な考え方	2時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。 ・「介護」が法的に「どのような変遷をたどってきたのかについて理解する。
2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間		【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶に関する基礎的な知識を理解する。 ・感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する。 ・自己概念と生きがい、老化や障害の受容に関する基礎的な知識を理解する。

3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の維持・恒常のしくみを理解する。 ・骨や関節など、からだの動きのメカニズムを理解する。 ・神経の種類と、そのはたらきを理解する。 ・眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱・脈拍・呼吸数・血圧を実際に測り、測定の際の注意点や正常値・異常値について理解を深める。
4. 生活と家事	8時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を継続していくための家事の重要性について理解する。 ・家事援助（調理・洗濯・掃除などの援助）は利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事援助の実際について実技や事例検討を通して理解する。
5. 快適な居住環境整備と介護	6時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して快適に生活するために必要な環境整備とは何かについて理解する。 ・住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について理解する。 ・高齢者や障害のある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住環境の整備や福祉用具について、グループワークでの事例検討や実際に使用することで、活用の有効性について理解する。
6. 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容の必要性と、整容に関連したところとからだのしくみを理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技演習を通して利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術について理解する。
7. 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗の必要性と、移動・移乗に関連したところとからだのしくみを理解する。 ・心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技演習を通して利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術について理解する。

8. 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の必要性と、食事に関連するところとからだのしくみを理解する。 ・ 心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実技演習を通して利用者本人の力を活用し、食事の介護を行うための技術について理解する。
9. 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入浴・清潔保持の必要性と、入浴・清潔保持に関連するところとからだのしくみを理解する。 ・ 心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実技演習を通して利用者本人の力を活用し、楽しい入浴の介護を行うための技術について理解する。
10. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 排泄の必要性と、排泄に関連するところとからだのしくみを理解する。 ・ 心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実技演習を通して利用者本人の力を活用し、気持ちの良い排泄の介護を行うための技術について理解する。
11. 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 睡眠の必要性と、睡眠に関連するところとからだのしくみを理解する。 ・ 心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実技演習を通して心地よい安眠を支援するための技術について理解する。
12. 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3時間		<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終末期のバイタルサインの変化とその内容について理解する。 ・ キューブラー・ロスによる死を受容するまでの5段階のプロセスについて理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終末期介護のポイントについて、グループワークを通して理解を深める。
13. 介護過程の基礎的理解		4時間	<p>【通信】</p> <p><添削課題のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程展開のイメージについて ・ 介護計画の立案、実施、評価について ・ チームケアにおける介護職の役割について

14. 総合生活支援技術演習	8時間	【演習】 ・事例を通じて、分析・適切な支援・心身の状況に合わせた介護を提供について、グループワーク・実技演習を行い理解する。
----------------	-----	---

(10) 振り返り		
到達目標		
研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。		
項目	通学	
1. 振り返り	4時間	【講義】 ・今まで学習してきたことを知識・技術として定着させるために必要な視点を理解する。 【演習】 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたいうで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認する。
2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		【講義】 ・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解する。 【演習】 ・在宅、施設の何れかの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解する。

⑥主要テキスト

中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト 【全2巻】

⑦修了認定

1) 出欠の確認方法

- ・講師は各教科の開始時に出席の確認を行い、出席簿に記入する。
- ・15分以上の遅刻・早退・中抜けは欠席とみなすため、所定の欠席届を提出すること。

2) 成績の評定方法

- ・対面での講義については各科目（項目）成績の評定は行わない。
- ・通信課題について、6回に分けて添削指導を行うこととし、各回とも6割以上の正答率をもって合格とする。
- ・全科目の修了時に、受講者の知識・技術等の取得度について修了評価を行う。修了評価は、講師による評価と筆記試験により行う。講師による評価は、研修科目「9. こころとからだのしくみと生活支援技術」の中で、介護技術の習得度について評価する。

筆記試験は、全体で6割以上の正答であることを合格基準とする。
ただし、すべての科目において一つ以上の正答があることを要する。

3) 修了の認定方法

- ・ 講義および面接指導の研修科目（項目）のすべてに出席しなければならない。
 - ・ 通信課題のすべてに合格しなければならない。
 - ・ 修了認定の評定方法は、A（90点以上）、B（80点～89点）、C（70点～79点）、D（60～69点）、E（59点以下）の5段階とし、D以上を合格点とする。
 - ・ 受講者の知識・技術等の習得が十分でない認められた場合は、次のとおり取扱うこととし、合格基準に達するまでこれを繰り返す。
 - (7) 介護技術の修得度については、項目を単位として補講を行い、再評価する。
 - (4) 筆記試験で不合格となった場合は、補習を行い、再試験により再評価する。
- 再試験の合格基準は、筆記試験の合格基準に準ずる。
- ・ 各受講者の知識・技術等の修得度（修了評価の結果等）、出席等の状況（実習、補講を含む）等について、認定会議を開催し、研修の修了を認定する。

4) 修了証明書

- ・ 研修修了者に対し、別紙2に定める修了証明書及び修了証明書（携帯用）を交付する。
- ・ 研修修了者から紛失、氏名の変更等により再発行に係る所定の申請があった場合は、修了証明書及び修了証明書（携帯用）を再発行する。
なお、手数料として1部につき500円を受講者負担とする。
- ・ 再発行の際は、11(1)の規定を準用し、研修受講者が本人であることを確認する。

⑧補講の取扱い

- 1) 研修の一部を欠席したもので、やむを得ない事情があると認められるものについては、欠席した時間数について新たに別日を設定し、補講を行うことにより当該科目を終了したものとみなす。
- 2) 補講にかかる受講料については1時間につき1,000円を受講者負担とする。

⑨退学規定

- 1) 受講者が退学しようとするときは、所定の退学届を提出すること。
- 2) 受講者が当社の定める諸規定を守らず、又は受講者の本分にもとる次の行為があった時には、退学を命じることがある。
 - ・ 性行不良で改善の見込みがないと認められるとき
 - ・ 学力劣等で修了の見込みがないと認められるとき
 - ・ 正当な理由なくして出席が常でない者
 - ・ 研修の秩序を乱している者

⑩講師

講師調書 番号	氏名	担当科目（項目）	資格名	専兼別	備考
1	明道 裕也	「振り返り」 (4時間) 1. 振り返り 2. 就業への備えと 研修修了後における 継続的な研修	介護福祉士	兼務	

2	浅野 法子	<p>「介護における尊厳の保持・自立支援」(2時間)</p> <p>2. 自立に向けた介護</p> <p>「介護の基本」(3時間)</p> <p>1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携</p> <p>2. 介護職の職業倫理</p> <p>「介護におけるコミュニケーション技術」(3時間)</p> <p>1. 介護におけるコミュニケーション</p> <p>「介護・福祉サービスの理解と医療との連携」(4時間)</p> <p>1. 介護保険制度</p> <p>「こころとからだのしくみと生活支援技術」(5時間)</p> <p>3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p>	介護福祉士	兼務	
3	井上 健太	<p>「介護における尊厳の保持・自立支援」(7時間)</p> <p>1. 人権と尊厳を支える介護</p> <p>「介護・福祉サービスの理解と医療との連携」(3時間)</p> <p>3. 障害福祉制度およびその他の制度</p> <p>「こころとからだのしくみと生活支援技術」(7時間)</p> <p>13. 介護過程の基礎的理解</p>	介護福祉士	兼務	<p>添削責任者</p> <p>添削責任者</p> <p>添削責任者</p>
6	奥野 亮	<p>「介護・福祉サービスの理解と医療との連携」(2時間)</p>	理学療法士	兼務	

		<p>2. 医療との連携とリハビリテーション 「こころとからだのしくみと生活支援技術」 (6時間)</p> <p>5. 快適な居住環境整備と介護</p>			
8	阿部 ゆかり	<p>「老化の理解」 (2時間)</p> <p>2. 高齢者と健康 「認知症の理解」 (2時間)</p> <p>2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 「障害の理解」 (3時間)</p> <p>1. 障害の基礎的理解 2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識</p>	看護師	兼務	<p>添削責任者</p> <p>添削責任者</p> <p>添削責任者</p>
9	及川 千絵	<p>「こころとからだのしくみと生活支援技術」 (8時間)</p> <p>4. 生活と家事</p>	介護福祉士	兼務	
10	菊池 啓	<p>「介護の基本」 (3時間)</p> <p>3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント 4. 介護職の安全 「介護におけるコミュニケーション技術」 (3時間)</p> <p>2. 介護におけるチームのコミュニケーション 「障害の理解」 (1時間)</p> <p>3. 家族の心理、かかり支援の理解 「認知症の理解」 (3時間)</p>	介護福祉士	兼務	

		1. 認知症を取り巻く状況 4. 家族への支援			
11	井馬 佳奈	「こころとからだのしくみと生活支援技術」 (6時間) 8. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	介護福祉士	兼務	
12	鈴木 良太	「こころとからだのしくみと生活支援技術」 (6時間) 11. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	介護福祉士	兼務	
13	高田 裕子	「職務の理解」 (6時間) 1. 多様なサービスの理解 2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解 「老化の理解」 (3時間) 1. 老化に伴うこころとからだの変化と日常 「認知症の理解」 (1時間) 3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 「こころとからだのしくみと生活支援技術」 (5時間) 1. 介護の基本的な考え方 2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	介護福祉士	兼務	

15	中村 理恵	「こころとからだのしくみと生活支援技術」 (11時間) 12. 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 14. 総合生活支援技術演習	介護福祉士	兼務	
16	高橋 香織	「こころとからだのしくみと生活支援技術」 (6時間) 6. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	介護福祉士	兼務	
17	柳田 依織	「こころとからだのしくみと生活支援技術」 (6時間) 7. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	介護福祉士	兼務	
18	棚瀬 志保	「こころとからだのしくみと生活支援技術」 (6時間) 9. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	介護福祉士	兼務	
19	後藤 裕輔	「こころとからだのしくみと生活支援技術」 (6時間) 10. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	介護福祉士	兼務	

⑩その他

1) 本人確認

研修初日に、戸籍謄本、戸籍抄本、住民票、運転免許証等の公的証明書の提示により研修受講者が本人であることを確認し、その写しを保存する。

2) 修業年限の延長

受講者が病気・事故または災害等、やむを得ない事情により所定の研修期間以内に研修を修了することが困難と認められた場合は、最大8か月まで研修期間を延長することができる。ただし、受講者から所定の申請があった場合に限る。

3) 個人情報保護について

当研修事業の実施により知り得た受講者の情報については、当社の定める個人情報保護方針に基づき厳正に管理する。

4) 書類の保存

研修の実施に係る関係書類は終了後5年間保存する。修了者名簿は永久保存する。

5) 非常災害時の対応について

当社は、天災その他やむを得ない事由により、研修の実施が困難と判断した場合は、研修の中止又は延期の措置をとることとする。また研修を中止又は延期した場合、事業者は新たな日程を設定するなどの措置を講じることとする。

II 標準日程表

別紙参照

III 連絡先等

(1) お申込み・お問い合わせ

帯広市西7条南6丁目1-4 ライフシップケア帯広 TEL: 0155-22-3818

(2) 苦情対応

事業部 部長 山本 正人 080-1977-8998